

令和5年度第3回政策評価委員会における各委員の御意見と対応整理表

資料	委員	御意見	御意見に対する考え方
—	百瀬委員	政策評価委員会「令和6年度環境省政策評価実施計画（案）について」において、特段異議はありません。 昨年改訂した事前分析表については、今年も継続使用ということで、様式の改訂は有効であったと理解しました。 また、昨年の変更点であった「EBPM 的観点からの検証」は有効だったのでしょうか。 そして、事務処理を軽減できるとされていましたが、どのような変化があったのかも知りたいです。業務軽減できたのであれば、年度別評価実施計画で毎年評価項目が脱炭素関連だけではなく、法改正された後の「プラスチック問題」「生物多様性保全」など、民間企業が課せられた課題に関わる「4. 資源循環政策の推進」「5. 生物多様性の保全と自然共生の推進」を毎年評価対象にしていきたいと思います。	政策評価の改訂様式につきましては、令和6年度から使用となりますが、事前分析表と事後評価書を1シートに集約し、行政事業レビューシートと重複している項目を削除することにより、政策評価の内容を1年度分として作成可能となりました。また、入力ファイル自体にマクロ機能などを搭載することで、作成の負担軽減を図る仕様となっています。次年度の評価書作成における変化を踏まえ、令和7年度の評価から「4. 資源循環政策の推進」及び「5. 生物多様性の保全と自然共生の推進」を毎年度評価対象とするかを検討させていただきます。 なお、EBPM を取り入れた新しい行政事業レビューシートが、政府全体で今年度より全事業に適用され、令和6年度から本格的に運用される予定です。政策の立案・改善や予算編成プロセスといった意思決定プロセスで活用することを中心に、引き続き取り組んでいくこととなります。